

書 評

土持ゲーリー法一著

『ティーチング・ポートフォリオ授業改善の秘訣』

大 関 邦 夫*

ティーチング・ポートフォリオは教員が授業において行った努力を、「私はこのような教育をしています」と目に見える形で第三者に伝えるために効率的・効果的にまとめた記録、「教育業績ファイル」である。ティーチング・ポートフォリオを作成する過程を含めて、総合的なファカルティ・ディベロップメントであると言うことができる。ティーチング・ポートフォリオの導入により期待される効果には、将来の授業の向上と改善、証拠の提示による教育活動の正当な評価、優れた授業実践の共有などがある。

本書は、前著『戦後日本の高等教育改革政策－「教養教育」の構築』の実践編である。日本とアメリカの大学で教育を受けた著者は、両国の大学で行われている授業改善の優れた取組を具体的に紹介しながら、1章 授業シラバスの見直し、2章 授業シラバスの書き直し、3章

能動的学習、4章 授業改善への取組、と順次授業改善の要素を示しつつ、最終5章において、それらの要素を取り入れた、ティーチング・ポートフォリオの意義と具体的な書き方の詳細を述べている。すべての教員にとって授業改善の端緒は「自身の授業は学生を学習へ導いているか？」という教員自身の省察である。著者がティーチング・ポートフォリオを授業改善の秘訣と評価している理由はここにある。さらに、資料として、著者が実践している授業シラバスとティーチング・ポートフォリオが掲載されている。

本書は、授業改善を目指す教員にとって、現実感をもって読むことができる実用的で有用な参考書となるであろう。



〔東信堂 本体2,000円〕

* 弘前大学名誉教授